香川県の地震

令和７年（２０２５年）２月

香川県の地震活動
震央分布図、断面図 ・・・ １
地震概況 ・・・ １
香川県の地震表（震度１以上） ・・・ ２
震度分布図 ・・・ ２

南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会調査結果
（令和７年（2025 年）３月７日） ・・・ ３

地震一口メモ
南海トラフ地震臨時情報について（１） ・・・ ４～５

この資料の震源リスト・震源要素(緯度、経度、深さ、マグニチュード)は暫定値であり、後日再調査の上修正されることがあります。

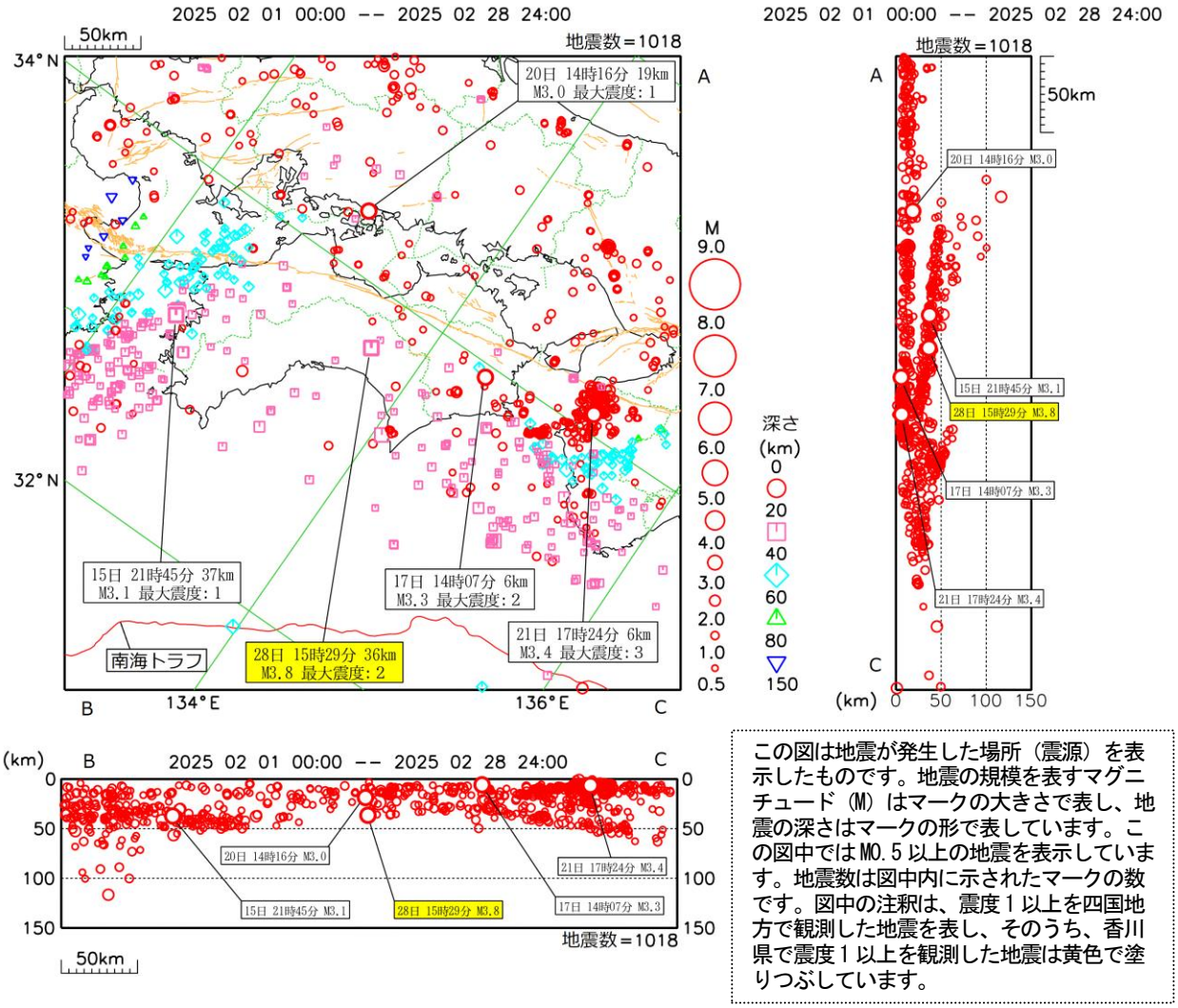
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

高 松 地 方 気 象 台

【香川県の地震活動】

2025 年２月

◎震央分布図、断面図



この図は地震が発生した場所（震源）を表示したものです。地震の規模を表すマグニチュード（M）はマークの大きさで表し、地震の深さはマークの形で表しています。この図中ではM0.5以上の地震を表示しています。地震数は図中内に示されたマークの数です。図中の注釈は、震度１以上を四国地方で観測した地震を表し、そのうち、香川県で震度１以上を観測した地震は黄色で塗りつぶしています。

〔左上：震央分布図、右上：A-C を投影面とした断面図、左下：B-C を投影面とした断面図〕

◎地震概況

香川県で震度１以上を観測した地震は、次の１回でした（前月は１回）。

28 日 15 時 29 分 高知県中部の地震（深さ 36km、M3.8）により、多度津町・三豊市で震度２、高松市・さぬき市・丸亀市・善通寺市・観音寺市・宇多津町・琴平町・まんのう町・綾川町で震度１を観測しました。この地震では、愛媛県西条市、高知県安芸市・高知市で震度２を観測したほか、中国・四国地方で震度１を観測しました。

四国で震度１以上を観測した地震は、前述の他に次の４回でした。

15 日 21 時 45 分 豊後水道の地震（深さ 37km、M3.1）により、愛媛県宇和島市・八幡浜市・愛南町、高知県宿毛市で震度１を観測しました。

17 日 14 時 07 分 徳島県南部の地震（深さ６km、M3.3）により、徳島県勝浦町・那賀町で震度２を観測したほか、徳島県内で震度１を観測しました。

20 日 14 時 16 分 瀬戸内海中部の地震（深さ 19km、M3.0）により、愛媛県今治市・上島町で震度１を観測しました。この地震では、広島県尾道市で震度１を観測しました。

21 日 17 時 24 分 和歌山県北部の地震（深さ 6km、M3.4）により、徳島県つるぎ町・阿南市・牟岐町・那賀町で震度１を観測しました。この地震では、和歌山県海南市・紀美野町で震度３を観測したほか、大阪府、和歌山県、徳島県で震度２～１を観測しました。

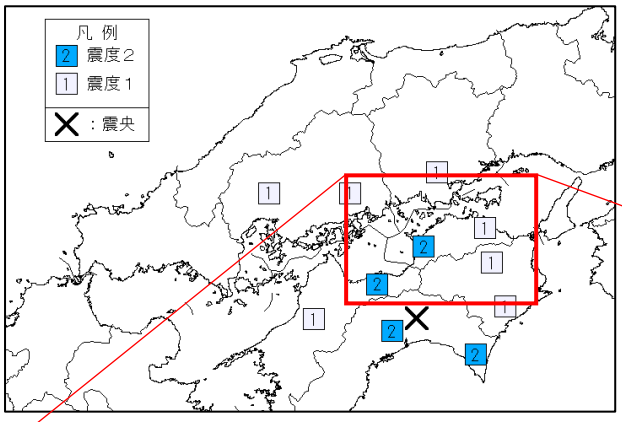
◎香川県の地震表（震度１以上）

震源時（年月日時分） 各地の震度	震央地名	緯度	経度	深さ	ﾏｸﾞﾆﾁｭｰﾄﾞ
2025年02月28日15時29分	高知県中部	33°41.1'N	133°38.8'E	36km	M3.8
香川県　震度　２：多度津町家中,三豊市豊中町＊					
震度　１：高松空港,高松市伏石町,高松市扇町＊,高松市塩江町＊,高松市国分寺町＊					
さぬき市長尾総合公園＊,丸亀市新田町＊,丸亀市綾歌町＊,丸亀市飯山町＊					
丸亀市大手町＊,善通寺市文京町＊,観音寺市坂本町,観音寺市瀬戸町＊					
宇多津町役場＊,琴平町榎井＊,三豊市財田町＊,三豊市山本町＊,三豊市高瀬町＊					
三豊市三野町＊,三豊市詫間町＊,まんのう町吉野下＊,綾川町山田下＊,綾川町滝宮＊					

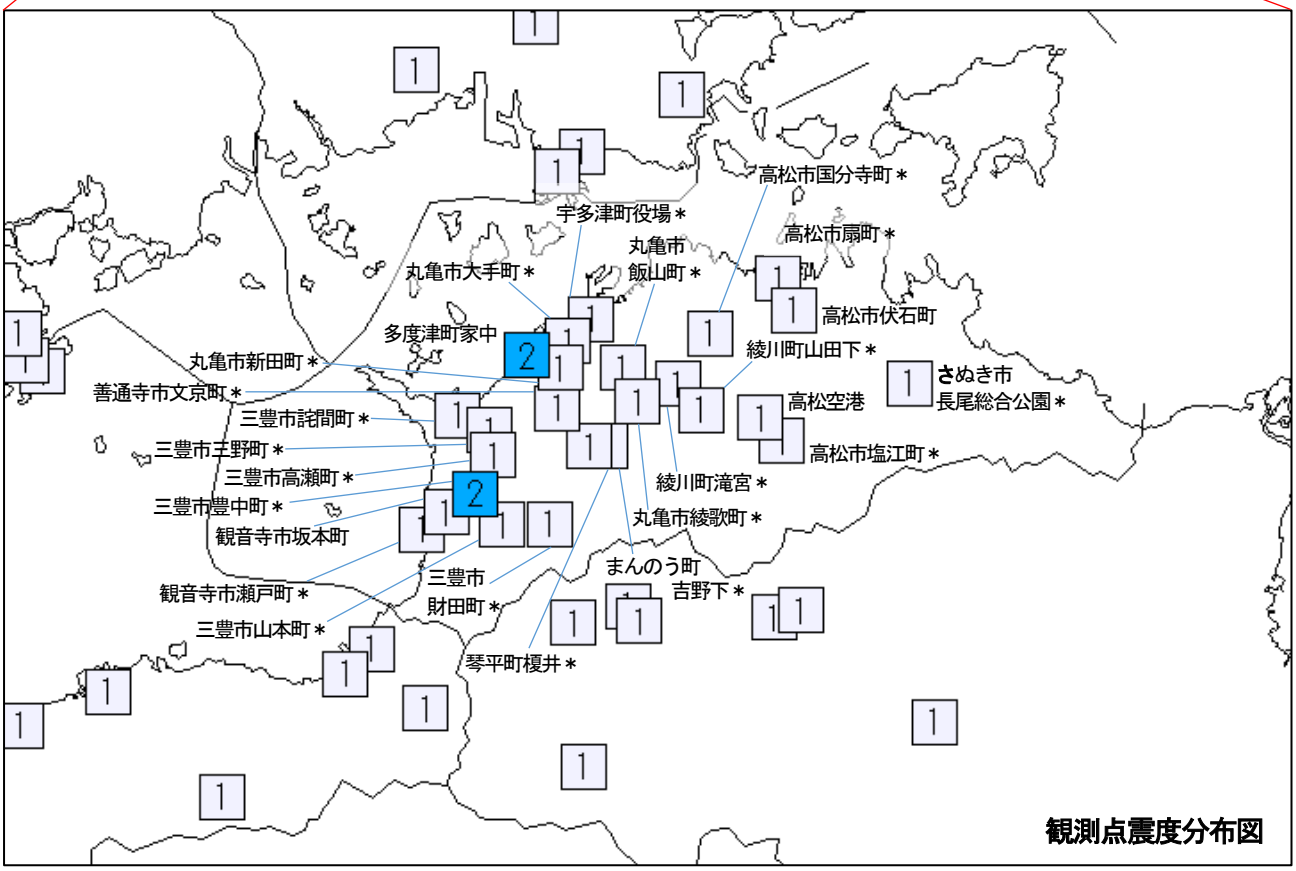
＊は気象庁以外の震度観測点

◎震度分布図

2025年02月28日15時29分 高知県中部の地震



地域震度分布図



観測点震度分布図

＊は気象庁以外の震度観測点

【南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会調査結果】

気象庁では、大規模地震の切迫性が高いと指摘されている南海トラフ周辺の地震活動や地殻変動等の状況を定期的に評価するため、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を毎月開催しています。

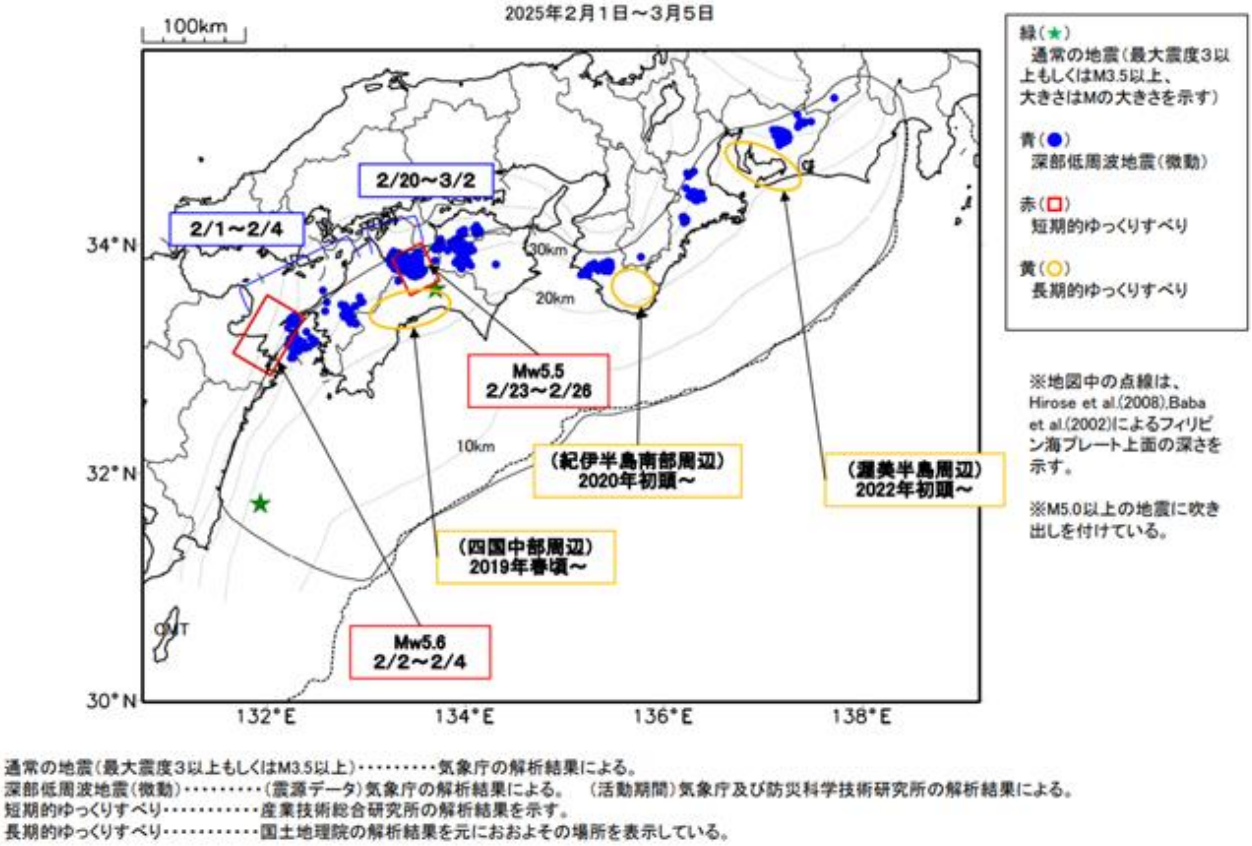
令和７年(2025 年) ３月７日に公表された評価検討会で評価された調査結果は次のとおりです。

【調査結果（概要）】

現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時（注）と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

（注）南海トラフ沿いの大規模地震（Ｍ８からＭ９クラス）は、「平常時」においても今後 30 年以内に発生する確率が 80%程度であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約 80 年が経過していることから切迫性の高い状態です。

【最近の南海トラフ周辺の地殻活動】



通常の地震（最大震度３以上もしくはM3.5以上）・・・・・・・・・気象庁の解析結果による。
深部低周波地震（微動）・・・・・・・・・・（震源データ）気象庁の解析結果による。　（活動期間）気象庁及び防災科学技術研究所の解析結果による。
短期的ゆっくりすべり・・・・・・・・・・・産業技術総合研究所の解析結果を示す。
長期的ゆっくりすべり・・・・・・・・・・・国土地理院の解析結果を元におおよその場所を表示している。

気象庁作成

上図の深部低周波地震（青●）、短期的ゆっくりすべり（赤□）、長期的ゆっくりすべり（黄○）について、これらの現象は、プレート境界の固着状況の変化を示す現象と考えられることから、気象庁は、関係機関の協力も得ながら注意深く監視しています。

なお、詳細は、次の気象庁報道発表資料をご参照ください。

https://www.jma.go.jp/jma/press/2503/07a/nt20250307.html

また、最新の南海トラフ地震に関連する情報は次のページ（ＵＲＬ）をご参照ください。

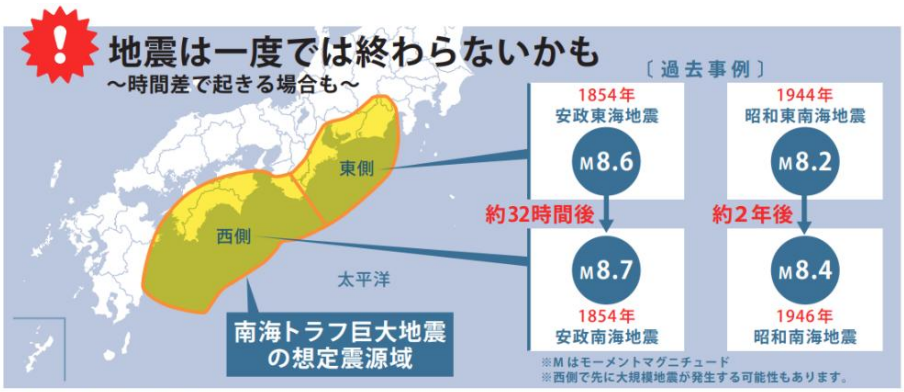
ホーム＞防災情報＞南海トラフ地震関連情報

https://www.jma.go.jp/bosai/nteq/

【地震一口メモ】

南海トラフ地震臨時情報について（１）

南海トラフ地震とは、駿河湾から日向灘沖までのプレート境界を震源とする大規模地震で、概ね 100～150 年間隔で発生しています。過去には想定震源域のほぼ全域で同時に地震が発生したことがあるほか、東側半分の領域で大規模地震が発生し、時間差をもって残り半分の領域で大規模地震が発生した事例もあります。前回の地震発生（1946 年）から約 80 年が経過し、次の地震発生の切迫性が指摘されています（図１）。



過去の南海トラフ地震

南海トラフ地震は、現在の科学的知見からは、地震予知（確度の高い地震（発生時期・発生場所・規模）の予測）を行うことは難しいとされています。一方で、南海トラフ沿いの地域で発生した現象に応じて、地震発生の可能性が平常時より相対的に高まっていると言うことは可能であるため、南海トラフ地震臨時情報で発表されます。

図１　気象庁ホームページ 地震は一度では終わらないかも　https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/jishin/nteq/index.html

南海トラフ地震臨時情報が発表された場合に、防災対応をとるべきエリアは、南海トラフ地震防災対策推進地域にある市町村（最大クラスの地震により津波高３m以上、震度６弱以上が想定される地域）です（図２）。

南海トラフ地震臨時情報は、次の地震の発生を予測（予知）する情報ではなく、大規模地震が発生する可能性が平常時と比べて相対的に高くなっていることを伝える情報です。

南海トラフ地震の監視領域（図３）内で通常と異なる現象を観測した場合、気象庁は「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会（以下、「評価検討会」と記述）」を開催して調査を開始し、調査結果を発表します。

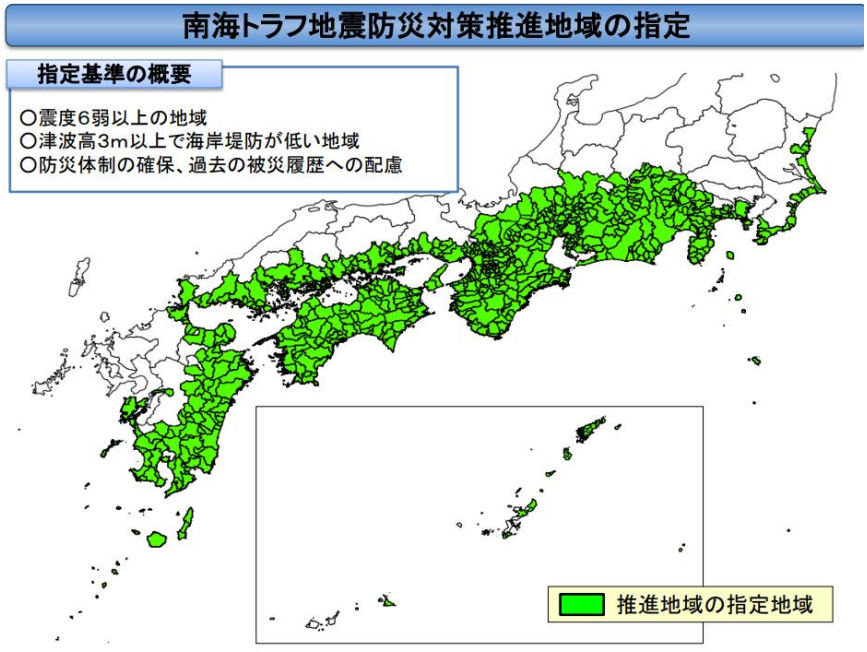
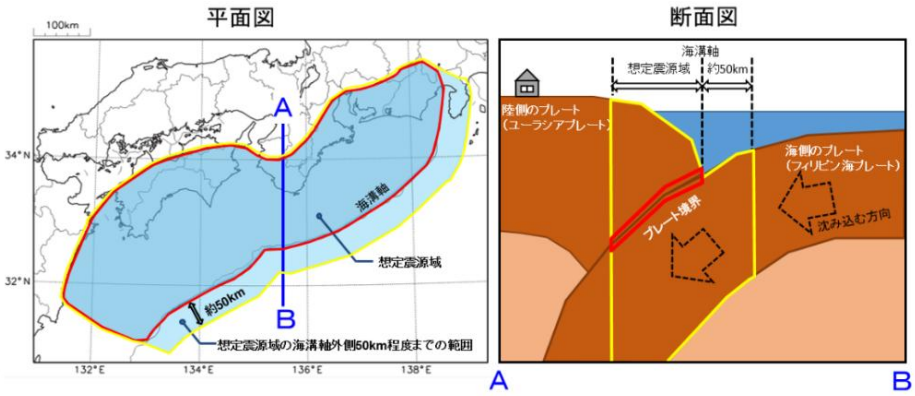


図２　内閣府防災情報のページ
南海トラフ地震防災対策推進地域の指定
https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/pdf/nankaitrough_chizu.pdf

評価検討会が調査を開始した時点と、調査結果を発表する時点には、以下のようなキーワードをつけた南海トラフ地震臨時情報を発表し、大規模地震の発生可能性が平時よりも相対的に高まっていることを伝えます。



想定震源域内（科学的に想定される最大規模の南海トラフ地震の想定震源域（中央防災会議、2013））のプレート境界部（図中赤枠部）と監視領域（想定震源域内および想定震源域の海溝軸外側50km程度：図中黄枠部）

図３　気象庁ホームページ　「南海トラフ地震に関連する情報」について
想定震源域内のプレート境界部（図中赤枠部）と監視領域（図中黄枠部）
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/jishin/nteq/info_criterion.html

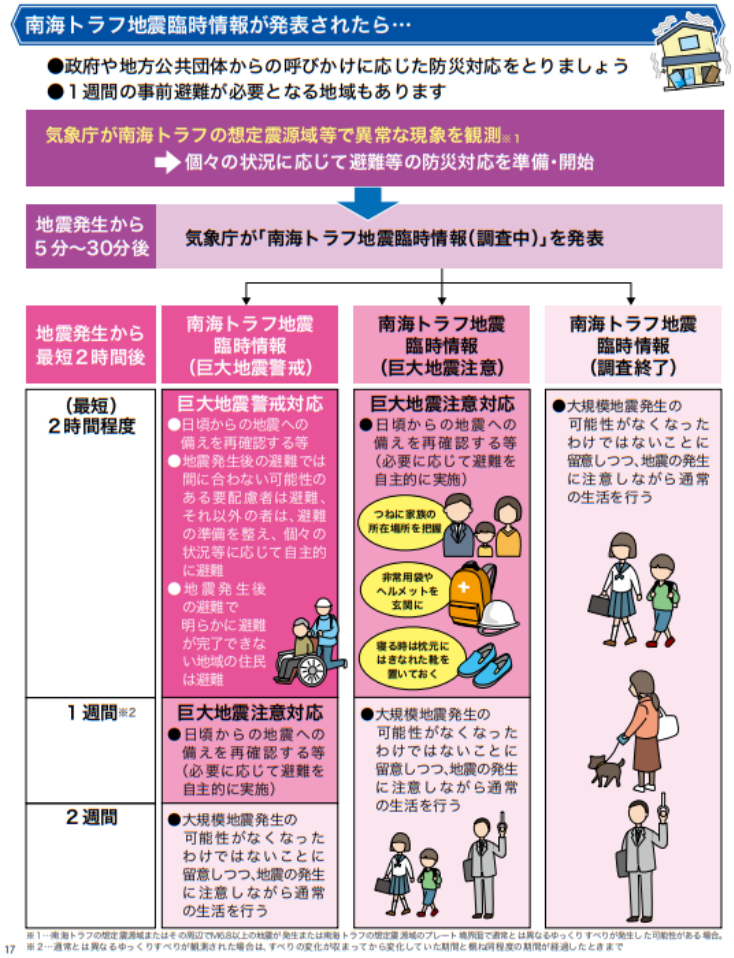


図４　気象庁ホームページ
マンガで解説！南海トラフ地震その日が来たら・・・
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/nteq_manga/index.html

・「南海トラフ地震臨時情報（調査中）」
　想定震源域内およびその海溝軸外側50ｋｍ程度までの監視領域（図３左図の黄色の枠で示した領域）において、速報的なマグニチュード（気象庁マグニチュード）6.8以上の地震が発生するなど、異常な現象が発生し、評価検討会を開催して調査を開始する場合です。

・「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）」
　調査を行った結果、想定震源域内のプレート境界において、精査したマグニチュード（モーメントマグニチュード）8.0以上の地震が発生したと評価した場合です。

・「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」
　巨大地震警戒に該当しない場合で、監視領域内で、精査したマグニチュード（モーメントマグニチュード）7.0以上の地震が発生したと評価した場合と、想定震源域内のプレート境界面において、通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価した場合です。

・「南海トラフ地震臨時情報（調査終了）」
　巨大地震警戒、巨大地震注意のいずれにも当てはまらない場合です。

　防災対応を呼びかける期間は以下のとおりです。防災対応の呼びかけは国や自治体が行います（図４も併せて参照）。

「巨大地震警戒対応」
　防災対応を行う期間は、１週間を基本とし、その後、巨大地震注意の防災対応を１週間継続します。

「巨大地震注意対応」
　防災対応を行う期間は、１週間を基本としますが、ゆっくりすべりの場合はすべりが収まったと評価されるまでの期間です。

　防災対応を呼びかける期間の長さ（１週間）は、人々が対応を続けられる限度等を考慮して決められた期間の長さです。１週間が経過したら地震の可能性がなくなるわけではありません。大規模地震の多くは突発的に起こりますので日頃からの備えが重要です。